令和８年度公社等点検評価表

（一次点検評価・二次点検評価）

公 社 等 名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所 管 部 局	企画調整部文化スポーツ局
担　当　課	生涯学習課

《評価資料》

１　公社等点検評価表 ---------- 1

２　付表１（概要） ---------- 2-1

３　付表２（実施事業） ---------- 3-1

４　付表３（経営状況） ---------- 4-1

５　付表４（経営分析等） ---------- 5-1

６　付表５（組織人員体制） ---------- 6-1

７　付表６（県関与の状況） ---------- 7-1

８　別紙１（県の財政的関与（支援）の内訳） ---------- 8-1

９　別紙２（役員等の状況） ---------- 9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点１：計画性（マネジメントサイクルの確立）
公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

１　マネジメントサイクルの確立
経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表２）の評価

⑴ 経営計画等について
① 中期経営計画２０２４年度～２０２８年度
② 令和７年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

⑵ 成果目標について
東日本大震災の経験及びコロナ禍を踏まえ作成した「中期経営計画２０２４年度～２０２８年度」の２年目となった令和７年度は、２５周年記念の施設のリニューアルオープンなどもあり入館者数は６３９，５７１人と前年度を上回り、目標値は達成することができた。
その他、③幼稚園・学校教育減免者数、④移動水族館車の実施回数、⑤提携旅館・ホテル等からの送客数の３項目の成果指標については目標値に届かなかったものの、②パスポート保有者数については目標を達成することができた。

実　績	令和７年度	
	実　績	目標値
入館者数	６３.９万人	６３万人
パスポート保有者数	7,671 人	7,500 人
幼稚園・学校教育減免者数	3.0 万人	3.6 万人
移動水族館回数	25 回	40 回
提携ホテルからの送客数	2.7 万人	2.9 万人

⑶ 事業目標と実績の評価
① 開館２５周年記念事業という位置づけで「わくわく里山・縄文の里」を「わくわく・はじまりの森」としてリニューアルオープンした他、「アクアマリンえっぐ」についても幼少期の来館者を対象とした自然体験導入展示に内容の見直しを行い、当館の魅力向上と新たな来館動機の創出に努めた。
なお、震災前の平成２２年度の入館者数（８６１，３２６人）と比べると、７４．６％であった。
② ショップ「アクアマリンショップＪＯＨＭＯＮ」はリニューアルオープンに伴うコーナー名変更に合わせ「アクアマリンショップＵｍｉｎｏｓａｔｏ」へと名称変更。ショップ「ウミノス」との２店舗の営業により、広い客層の集客・販売の拡充に努めた。

２　マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

⑴ 来館者へのアンケートを継続的に実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、満足度や意見要望の把握を行っている。
⑵ ＧＷ期やお盆期間の繁忙期において、駐車場調査を実施し、来館者居住地及び動向の把握に努め、営業・広報施策の検討に活用している。
⑶ 小名浜まちづくり市民会議やばんえつ発見の旅、港会（小名浜港関連の１６公的機関）、３社協議会（イオンモール小名浜を含む周辺団体）などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。
⑷解説員及びボランティアを主体として様々な体験活動を提供に取り組んでいる。来館者のニーズに合わせた解説を提供できるよう、体験内容を定期的に更新している。
⑸猪苗代町から指定管理を受けている「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」では、

福島県の水環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、積極的に情報発信していく。

視点２：経済性・効率性
事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

１　経営状況（付表３）及び経営分析等（付表４）についての評価

平成１２年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少してきたが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成２２年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、東日本大震災発災以降、福島第一原子力発電所事故による風評の影響により、当館を取り巻く環境は大きく変化したことに加え、新型コロナウイルスの蔓延による旅行需要の減少など厳しい経営環境が続いてきた。

令和７年度においては、観光需要の回復基調が継続するとともに、各種企画事業の効果もあり、入館者数は堅調に推移し、一定の収支均衡が図られている。しかしながら、物価高騰やエネルギー価格の上昇、人件費の増加など施設運営に影響を及ぼす懸念事項も多く、今後の経営環境は依然として不透明であり、引き続き入館者の増加につながる魅力ある企画事業等の実施や業務委託内容の見直しなどにより、持続的かつ安定的な施設運営に向けて検討を進める必要がある。

２　サービス向上策の評価

年中無休営業、ＧＷなどの超繁忙期の開館時間の繰上・延長、チケット事前購入者向けの入館待ち列設定による入館待ち時間短縮を実施した。また、企画展、季節演出及び各種催事の開催、解説員による体験プログラム提供など来館者サービスの向上に努めた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点１：計画性（マネジメントサイクルの確立）
公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

１　マネジメントサイクルの確立

（１）計画性

経営計画については、東日本大震災・原子力災害の経験及びコロナ禍を踏まえ、「中期経営計画２０２４年度～２０２８年度」を作成している。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「中長期計画２０１９年度～２０２３年度」の総括を踏まえ、コロナ禍を経た社会環境や人件費、燃料費の高騰などの経営環境の変化等を反映し、環境水族館路線の堅持、他の水族館にない展示・プログラムの展開、連携交流の促進等に取り組む内容となっており、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

（２）成果目標と達成状況

本計画において５つの成果目標が掲げられている中で、令和７年度は、展示等が好調だったことから２項目（①入館者数、②パスポート保有者数）について達成することできた。

２　マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケー

ト調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握に努めている。

3　令和７年度実施事業に対する評価

(1)設立目的及び公益性に照らした事業の評価

令和７年度に実施した飼育展示事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

飼育困難生物の畜養や深海性生物の採集を行い、魅力ある展示に努めたほか、季節ごとのイベントや様々な企画展を開催し、誘客と来館者サービスの向上に取り組んだことは評価できる。

(2)公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性向上を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による収益は、公益事業の財源として活用されている。

収益事業の規模は、公益事業と対比して２分の１以下となっているため、バランスは適正である。

(3)社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます高まるものと考えられる。

また、自然体験による学習交流支援、放射能汚染への理解促進にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。「わくわく・はじまりの森」や「アクアマリンえっぐ」のリニューアルオープンにより幼少期の来館者をターゲットとしたコンテンツの更新や多様な企画展の実施等を通して、施設の魅力向上と新たな来館動機の創出を達成したことは評価できる。

今後も施設の一層の有効活用、関係機関との協力等によって、次の時代・世代の要請に応える事業を展開していくことを期待する。

視点２：経済性・効率性
事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1　県の財政的関与にかかる自己点検について

法人の経済的かつ効率的な施設の運営に努めたことから、令和７年度の法人の財政状況としては、収支バランスを維持することができた。

しかし、入館者数が震災前の状況まで回復していないことや新たな感染症の流行など、今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2　収益事業について

ミュージアムショップ等事業、レストラン事業等の収益事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されているが、今後も創意工夫により収益事業の安定を図る必要がある。

【参考】収益事業会計収益及び他会計への繰出額 ※（ ）書きは他会計への繰出額

令和　７年度 ３７４，５５８千円 （ ５２，３９９千円）
令和　６年度 ３５１，１５９千円 （ ３４，８３５千円）
令和　５年度 ３１８，８９１千円 （ ３２，１３２千円）
令和　４年度 ２８７，５７３千円 （ ２６，４３３千円）
令和　３年度 ２２０，５７８千円 （　３，０７３千円）
令和　２年度 ２２９，３９８千円 （ １６，０８１千円）
令和　元年度 ２７６，１４２千円 （ ２７，０３０千円）
平成３０年度 ２７７，３１６千円 （ ２９，７８０千円）
平成２９年度 ３１７，３６５千円 （ ５０，８８６千円）
平成２８年度 ４０６，４９７千円 （ ８０，８２５千円）

平成２７年度 ３７９，６２１千円 （１２２，１６４千円）
平成２６年度 ３４１，７６７千円 （１０７，１４５千円）
平成２５年度 ３３７，７６０千円 （１０７，４７１千円）
平成２４年度 ３３７，０１６千円 （ ８５，０００千円）
平成２３年度 ２３３，４８７千円 （ ４０，０００千円）
平成２２年度 ３３０，３８１千円 （ ４０，０００千円）

３　経費節減について

施設の老朽化が進んでいることから突発的な修繕が必要となる可能性に加え、水道光熱費や人件費の高騰による委託料の増など懸念材料が多いことから、引き続き創意工夫により施設管理の効率化に努める必要がある。

４　サービス向上策について

年中無休営業並びにゴールデンウィーク、夏休み期間及びクリスマス期間の開館時間延長に加え、入館料割引特典等によるリピーター増に努め、ＳＮＳによる情報発信の強化や季節に関連したイベントの開催により、来館者サービスを向上させた。

しかしながら、原発事故による風評被害や新型コロナウイルス感染症、少子化や人口減少等により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点３：課題への対応状況
共通課題１：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
１　東日本大震災からの復旧状況 平成 25 年で復旧工事は完了したが、津波浸水の影響による金属部分の劣化が顕在化している他、建造物周囲の地盤沈下は依然として続いており、段差や陥没が生じている。盛り土の締まりだけではなく、地中梁の下から土砂が建物のピット内に崩れている個所もあり、屋外施設の観覧通路が陥没した例もあるため、計画的な修繕を行う必要がある。 ２　原発事故に伴う損失 令和７年度の入館料収入は、平成２２年度の 836,189,475 円に比べて 170,616,175 円減の 665,573,300 円となった。これは人口減少、少子化、娯楽の多様化、隣接県での水族館のオープンなどによる影響のほか、原発事故による風評被害の影響も依然として続いているものと考える。
個別課題：

〔二次点検評価:左に対する所管部局としての評価〕

視点３：課題への対応状況
共通課題１：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
１　東日本大震災からの復旧状況 復旧工事については終了したが、東日本大震災の地震の揺れ、津波の塩害等及び築２５年を経過したことにより建物・設備の劣化が進んでいるため、適切な維持管理を行っていく。 ２　原発事故に伴う損失 令和７年度の入館者数は６３．９万人まで回復したが、依然として風評による入館者の減少は続いていくと考えられるため、今後も展示の充実や近隣施設との連携を図り入館者数の増加を目指していく。
個別課題：

２　付表１：公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例
設立年月日	平成10年　4月　1日
代表者職氏名	理事長　古川　健
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ	https://www.aquamarine.or.jp
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。
経営理念・目標等	公益財団法人ふくしま海洋科学館は、平成21年度から中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行い、業務の効率化やコスト削減を行うとともに、展示の質の維持・向上を図ることで経営の健全化を目指してきました。しかし平成23年3月の東日本大震災とその後の風評被害が継続する中、燃料費等物価の高騰や施設の老朽化等厳しい運営を迫られています。 2003年に世界に向けて発信した環境水族館宣言の運営理念を堅持しつつ、世界に類を見ない展示や体験活動を提供し、子どもたちに希望のある明るい未来を想像させる唯一無二の水族館として、施設の魅力を高め、入館者の確保に努めていきます。また、当財団同様に苦境にたたされている地域の皆様と、共に考え、共に歩み、地域全体でこの状況を打破していきます。

資本金・基本金	H22末	R4末	R5末	R6末	R7末	R8末予定
（単位：千円）	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
（構成比）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

令和7年度末
出資等内訳
（単位：千円）
※県出資等を除く。

出資順位	団体名	出資額	構成比
1			
2			
3			
4			
5			

主な事業内容
（詳細：付表2）

1. 海洋生物（その他の水族を含む）の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業
2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業
3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業
4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業
5. 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業
6. 上記1から5の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業
7. その他公益目的を達成するために必要な事業
8. ショップ及びレストランの運営等に関する事業
9. 古物営業に関する事業
10. その他上記事業に関連する事業

3　付表2：実施事業

1	事業名	飼育展示事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①調査収集事業 展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。 ②飼育企画事業 収容生物（植物を含む）の展示企画・飼育管理、屋外展示エリアの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う						
	目標	①淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。 ②収容生物・植栽の展示・飼育管理等を行う。						
	事業実績	①飼育生物数(各年度末時点)22年度末684種27,495点（東日本大震災により激減）、令和4年度末1,261種66,856点、令和5年度末1,246種77,952点、令和6年度末1,315種78,937点,令和7年度末1,277種67,330点。 ②開館25周年記念事業「わくわく・はじまりの森」オープン ③「アクアマリンえっぐ」リニューアルオープン ④コトクラゲの不思議解明 ⑤水槽数・・204槽（本館125槽、びおびお・つながりの里1槽、じゃぶじゃぶ・めぐりの海1槽、えっぐ釣り堀3槽、保全センター15槽、クウェート・ふくしま友好記念日本庭園2槽、わくわく・はじまりの森、金魚館57槽） ⑥鳥獣舎数・・・アクアマリンえっぐ2舎、どうぶつごっこ5舎、わくわく・はじまりの森4舎						
	事業費 （単位：千円）	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
		169,490	105,284	76,684	183,393	92,975	108.2%	54.9%
2	事業名	移動水族館事業					継続事業	公益事業
	事業内容	移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。						
	目標	移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。						
	事業実績	移動水族館実施件数…22年度12箇所・観覧者16,017名 4年度13か所開催・観覧者19,096名（有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く） 5年度22か所開催・観覧者35,938名（有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く） 6年度13か所開催・観覧者23,273名（有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く） 7年度13か所開催・観覧者22,746名（有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く）						
	事業費 （単位：千円）	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
		26,211	1,049	1,006	729	623	2.8%	2.4%
3	事業名	研究交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	新規展示開発につながる生物収集、生態研究及び環境保全活動の推進に務める。						

	事業実績	①学術論文 ・「コトクラゲの幼生期における櫛板の退縮機構」Zoological Science ほか5誌 ②学会発表 ・「サンマの初期発生と比較ゲノム解析」日本動物学会ポスター発表 ほか7件 ③特許取得 水中生物の減圧症改善のための「水中生物収容装置」 ④世界動物園水族館協会の会員として、野生生物保全事業やアニマルウェルフェア推進の情報収集・意見交換						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	（単位：千円）	13,726	12,204	14,300	14,299	10,612	104.2%	77.3%
4	事業名	海洋文化推進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	シーラカンス調査を紹介するイベント、講演を館内外で実施した。						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	（単位：千円）	17,410	575	3,337	6,664	425	38.3%	2.4%
5	事業名	企画営業事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①入館者管理事業 接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。 ②企画営業事業 来館者サービスと広報を兼ね、館内外におけるイベント等を実施し来館者の増加を図る。 ③広報宣伝事業 ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。 ④観光誘致事業 首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。 ⑤地域交流事業 周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。						
	目標	①受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。 ②季節演出及び各種催事を実施する。 ③テレビ、ラジオ及びCMの放送、雑誌・WEBメディアへの広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配布、SNS等を使った広報を実施。 ④エージェント等への営業訪問を実施する。観光商談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客活動を行う。 ⑤ばんえつ発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。						

	事業実績	①年間パスポート販売件数・・22年度8,386件、4年度7,720枚、5年度7,299枚、6年度7,123件、7年度7,671枚 ③テレビCM放映局数（県内、県外）・・22年度40局、4年度14局、5年度17局、6年度18局、7年度18局。 ④契約宿泊施設等宿泊者限定チケット送客数・・22年度23,712人、4年度24,772人、5年度28,892人、6年度31,342人、7年度。26,776人。 　コンビニ店舗における前売券販売による入館者数・・4年度17,710人、5年度26,950人、6年度14,587人、7年度11,362人 ⑤小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	（単位：千円）	158,925	118,763	127,307	146,202	153,921	92.0%	96.9%
6	事業名	学習交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①解説活動事業 　子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。 ②学校教育関連事業 　学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。 ③情報提供事業 　機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。 ④企画展開催事業 　魅力ある展示を維持するため、テーマを決めた企画展の開催、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。						
	目標	①海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設を目指す。 ②展示の充実を図る。 ③館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車輌の活用等により学習支援事業を実施する。 ④機関紙（AMF NEWS）の発行。						
	事業実績	①解説員による大水槽の生き物解説や有料のバックヤードツアー等の解説活動を実施した。 ②「シン・シーラカンス展」「ギョギョっとサカナスター展」など当館の取組や展示を紹介する企画展を実施した。 企画展開催件数（催事も含む）…22年度10件、4年度18件、５年度15件、6年度22件、7年度13件。 ③移動水族館専用車による移動水族館の開催…、4年度27校1,892人、5年度14校903人、6年度12校944人、7年度12校964人。 ④機関紙（AMF NEWS)を年4回発行。						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	（単位：千円）	119,660	14,765	16,691	15,568	15,062	13.0%	12.6%
7	事業名	スクール開催事業					継続事業	公益事業
	事業内容	①生物や環境、命の大切さなどについての体験を通して楽しみながら学ぶプログラムを提供する。 ②マアジやギンザケ等の釣り体験、調理・食事体験を実施する。						
	目標	①海の生物に親しみ、自然の事象について興味・関心を高めることを目的に、子どものみ、親子等というように、募集対象も異なる多種多様なプログラムを事前参加募集により開催する。 ②体験を通して、子どもたちに命を頂戴する意味を五感を通して考えていただく。						
	事業実績	①「飼育員と学ぼう」と題した、飼育員が様々なテーマでレクチャーを行う体験プログラムを18回開催し、246名の参加があった。 ②釣った魚を調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。 参加者数：16,832組。						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	（単位：千円）	20,077	28,586	37,754	40,116	42,047	199.8%	209.4%
8	事業名	ボランティア等活動事業					継続事業	公益事業

	事業内容	アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。						
	目標	バックヤードツアーの実施他、各種体験プログラムの補助等。						
	事業実績	ボランティア登録者数…22年度末237名4年度165名、5年度165名、6年度171名、7年度179名。						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	(単位:千円)	2,245	873	1,321	1,792	2,319	79.8%	103.3%
9	事業名	施設管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輌の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設…本館等敷地56,189.52㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床　925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡、わくわく・はじまりの森関連施設1,509.56㎡						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	(単位:千円)	390,577	412,109	410,168	431,090	448,093	110.4%	114.7%
10	事業名	ミュージアムショップ等事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしまの来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上… 22年度282,063,891円、4年度243,608,726円、5年度272,740,184円、6年度271,193,783円、7年度289,117,617円						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	(単位:千円)	207,986	195,388	213,341	203,597	226,766	97.9%	109.0%
11	事業名	レストラン事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上… 22年度37,392,835円、4年度54,620,621円、5年度,70,491,699円、6年度76,840,240円、7年度81,683,659円、						
	事業費	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
	(単位:千円)	49,995	47,571	58,599	65,880	71,015	131.8%	142.0%
12	事業名	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに、統括的な事業展開を行う。						
	目標	①絶滅が危惧される生物の保全を図る。 ②参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動を図る。						

	事業実績	①福島県の河川・湖沼についての展示を行うとともに、希少淡水魚の他、カワセミなどの鳥類、カヤネズミなどの小型哺乳類、ゲンゴロウをはじめとする水生昆虫等の展示を行い、生物多様性について情報発信を行った。 ②釣り体験やタッチング水槽等の体験型展示を通じて環境保全や教育普及を行った。						
	事業費 （単位：千円）	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
		―	87,870	87,497	89,134	104,338	―	―

4　付表3：経営状況

区分		H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
収支の状況	① 収入	2,016,339	2,275,046	2,368,887	2,644,263	2,806,707	131%	139%
	当期収入合計	1,811,389	1,486,533	1,559,229	1,776,412	1,838,672	98%	102%
	うち基本財産運用収入	1,778	161	207	207	207	12%	12%
	うち事業収入	1,201,042	1,001,901	1,125,654	1,124,138	1,143,201	94%	95%
	うち補助金等（補助金・負担金・交付金・委託料等）	541,615	484,471	433,368	652,067	695,264	120%	128%
	うち借入金	0	0	0	0	0	－	－
	うち特定預金取崩	66,954	0	0	0	0	－	－
	前期繰越収支差額※1	204,950	788,513	809,658	867,851	968,035	423%	472%
	② 支出	1,838,355	1,512,374	1,517,749	1,696,978	1,857,523	92%	101%
	うち人件費総額	424,208	453,131	460,207	478,329	522,244	113%	123%
	うち人件費総額管理費（除人件費）	402,188	416,210	415,112	437,702	455,237	109%	113%
	うち事業費（除人件費）	1,011,959	643,032	642,431	780,947	880,042	77%	87%
	③ 当期収支差額※2	−26,966	1,426	39,940	91,454	−7,792	−339%	29%
	④ 次期繰越収支差額※1	177,984	809,658	867,851	968,035	930,004	544%	523%
財産の状況	① 資産	2,450,327	1,977,628	2,034,014	2,217,762	2,216,133	91%	90%
	流動資産	563,491	1,019,970	1,068,777	1,253,479	1,213,402	222%	215%
	固定資産	1,886,836	957,659	965,237	964,283	1,002,731	51%	53%
	② 負債	514,982	585,326	606,096	715,410	732,633	139%	142%
	流動負債	372,654	210,312	200,926	285,444	283,398	77%	76%
	うち借入金	0	0	0	0	0	－	－
	固定負債	142,328	375,014	405,171	429,966	449,235	302%	316%
	うち借入金	0	0	0	0	0	－	－
	③ 正味財産	1,935,344	1,392,302	1,427,917	1,502,352	1,483,500	78%	77%
	うち当期増減額	19,703	−25,841	35,615	74,434	−18,852	378%	−96%

5　付表4：経営分析

区　　分	H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R6/H22	R7/H22
①公益事業比率	82%	82%	80%	82%	83%	101%	101%
支出額計	1,838,355	1,512,374	1,528,614	1,696,978	1,857,522	92%	101%
公益事業支出額	1,502,886	1,239,358	1,228,389	1,397,386	1,532,690	93%	102%
収益事業支出額	335,469	273,016	300,225	299,592	324,832	89%	97%
②直営事業比率	96%	80%	81%	77%	82%	80%	86%
支出額計	1,838,355	1,512,374	1,517,749	1,696,978	1,857,523	92%	101%
直営事業支出額	1,757,172	1,215,450	1,232,039	1,302,631	1,528,916	74%	87%
再委託事業支出額	81,183	296,924	285,710	394,347	328,607	486%	405%
③自主事業比率 （自主事業／支出額計）	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④施設等利用人数 （行政客体）	861,326	584,564	611,040	622,746	639,571	72%	74%
⑤施設等稼働率						－	－
⑥補助金等（補助金・負担金・交付金・委託料等）比率 （補助金等額／当期収入合計）	30%	21%	18%	25%	25%	82%	83%
⑦流動比率 （流動資産／流動負債）	151%	486%	532%	439%	428%	291%	284%
⑧管理費比率 （管理費／支出額計）	22%	28%	27%	26%	25%	118%	112%
⑨人件費比率 （人件費／支出額計）	23%	30%	30%	28%	28%	122%	122%
⑩借入金比率 （借入金／資産）	0%	0%	0%	0%	0%	－	－
⑪一人当たりの人件費 （人件費／総職員）	5,050	5,526	5,351	5,199	5,329	103%	106%
⑫一人当たりの事業収入 （事業収入／総職員）	20,746	12,218	13,089	12,219	11,665	59%	56%
⑬補助金等（補助金・負担金・交付金・委託料等）に含まれる人件費比率（人件費／補助金等）	78%	94%	106%	73%	75%	94%	96%
⑭事業収入に含まれる人件費比率 （人件費／事業収入）	24%	45%	41%	43%	46%	175%	188%

５　付表4ー2：経営分析

⑮長期借入金の状況	（令和7年決算の内訳）		（単位：千円）
借入先	金額 利率	目　　的	返済予定

6　付表5:組織人員体制

1　役職員の状況

（単位:人）

区分		H22末	R4末	R5末	R6末	R7末	R8(4/1)	R7/H22	R8/H22
役員（監事含む）	常勤役員	2	2	2	2	2	2	100%	100%
	プロパー	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	民間							－	－
	県OB							－	－
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	その他							－	－
	非常勤役員	10	9	9	9	9	9	90%	90%
	民間	7	7	7	7	7	7	100%	100%
	県OB		1	1	1	1	1	－	－
	県現職	2	1	1	1	1	1	50%	50%
	その他	1						－	－
	合　計	12	11	11	11	11	11	92%	92%
職員	常勤職員	41	47	46	46	50	48	122%	117%
	プロパー	35	44	43	43	47	45	134%	129%
	民間							－	－
	県OB							－	－
	県現職派遣	6	3	3	3	3	3	50%	50%
	その他							－	－
	非常勤職員	41	35	40	46	48	50	117%	122%
	嘱託員	2	3	3	3	3	3	150%	150%
	臨時職員	34	4	5	7	4	11	12%	32%
	人材派遣						1	－	－
	その他	5	28	32	36	41	35	820%	700%
	合　計	82	82	86	92	98	98	120%	120%

2　職員の年齢構成（令和8年7月1日現在）

（単位:人）

区　分		～30歳	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～
管理職員	プロパー						3	3	
	民間								
	県OB								
	県現職派遣						2	0	
	その他								
	合計	0	0	0	0	0	5	3	0
一般職員	プロパー	6	4	3	8	8	7	4	
	民間								
	県OB								
	県現職派遣			2					
	その他								
	合計	6	4	5	8	8	7	4	0
総計		6	4	5	8	8	12	7	0

7　付表6：県の関与状況

区　分				H22決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R8当初	R7/H22	R8/22
財政的関与	①補助金等			479,530	441,805	387,594	612,721	577,721	577,721	120%	120%
		補助金		35,000	25,685	25,685	41,112	41,112	41,112	117%	117%
		負担金								－	－
		交付金								－	－
		委託料								－	－
		指定管理料		444,530	416,120	361,909	571,609	536,609	536,609	121%	121%
	②貸付金									－	－
	③損失補償額（契約額）									－	－
	④債務保証額（契約額）									－	－
人的関与	⑤役員就任（監事を除く）			2	2	2	2	2	2	100%	100%
		常勤役員		1	1	1	1	1	1	100%	100%
			県OB							－	－
			県現職派遣	1	1	1	1	1	1	100%	100%
			上記以外の職員							－	－
		非常勤職員		1	1	1	1	1	1	100%	100%
			三役							－	－
			部局長	1						－	－
			県OB							－	－
			上記以外の職員		1	1	1	1	1	－	－
	⑥監事就任			1	0	0	0	0	0	－	－
		三役								－	－
		部局長								－	－
		上記以外の職員		1						－	－
	⑦評議員就任			1	1	1	1	1	1	100%	100%
		部局長			1	1	1	1	1	－	－
		上記以外の職員		1						－	－
	⑧職員派遣			6	3	3	3	3	3	50%	50%
		管理職員		1	1	1	1	1	1	100%	100%
		一般職員		5	2	2	2	2	2	40%	40%

８ 別紙１

区分	名　　称 補助等の目的	R7決算額 （単位：千円）
補助金	利用料金免除事業補助金（福島県） 広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	41,112
	補助金額合計	41,112
負担金		
交付金		
委託料		
	委託料額合計	0
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料（福島県） 県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	536,609
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

９ 別紙2　　役員の状況

令和8年6月末現在

区分	定数	氏　名	常勤・非常勤の別	職　名	当初就任日 現任期満了日
理事長	1	古川　健	常勤	ふくしま海洋科学館館長	R3.6.28 R9.6評議員会の日
副理事長	1	（空席）			
専務理事	1	（空席）			
常務理事	1	山田清貴	常勤	ふくしま海洋科学館副館長	R8.6.24 R9.6評議員会の日
理　事	4～12	小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 R9.6評議員会の日
		川田政雄	非常勤	小名浜まちづくり市民会議副会長	H28.6.22 R9.6評議員会の日
		籔本美孝	非常勤	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	H29.6.21 R9.6評議員会の日
		高田浩二	非常勤	海と博物館研究所所長	R5.6.23 R9.6評議員会の日
		山下治子	非常勤	株式会社アム・プロモーション代表取締役	R5.6.23 R9.6評議員会の日
		松本朱実	非常勤	桜美林大学教育探求科学群特任教授	R7.6.26 R9.6評議員会の日
		丹治貴子	非常勤	福島県企画調整部文化スポーツ局次長	R7.6.26 R9.6評議員会の日
監　事	2以内	伊東幸雄		前公立岩瀬病院企業団企業長	R3.8.30 R11.6評議員会の日
		遠藤幸喜		東邦銀行常務執行役員いわき営業部長	R8.6.24 R11.6評議員会の日